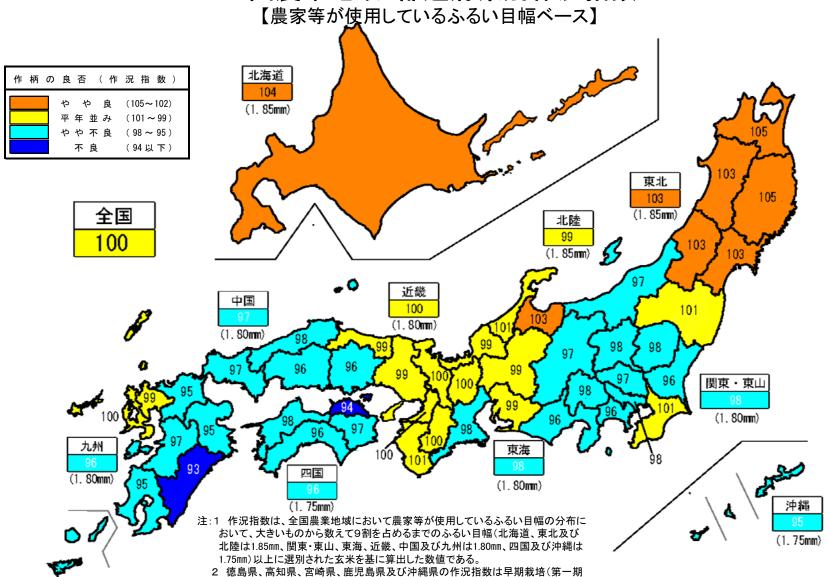
# 平成27 (2015)年産水稲の作柄について

# 平成27年産水稲の作況指数

## 全国農業地域•都道府県別作況指数



稲)、普通期栽培(第二期稲)を合算したものである。

# 平成27年産全国農業地域別作柄の特徴

#### 【北海道:作況指数104、東北:103】

- 一時低温の時期はあったものの、生育期間を通じておおむね天候に恵まれたことにより、全もみ数は 北海道を除いて平年を上回った。
- 登熟は、北海道においては、9月中旬以降の断続的な降雨で刈取作業が遅れた結果、登熟期間が 長くなり「良」となった。東北においては、8月中旬以降の低温・日照不足の影響がみられた宮城県、山 形県及び福島県では「やや不良」となったものの、その他の県では開花・出穂期が好天に恵まれたため 「やや良」となった。

#### 【北陸:99、関東・東山:98、東海:98、近畿:100】

- 〇 8月中旬までは高温・多照傾向で推移したことから、全もみ数は「平年並み」ないし「やや多い」となった。
- 〇 登熟は、8月中旬以降の低温・日照不足や台風等による影響がみられたことから、総じて「平年並み」ないし「不良」となった。

#### 【中国:97、四国:96、九州:96、沖縄:95】

- 6月以降の継続的な低温・日照不足や台風等の影響により、全もみ数が「平年並み」ないし「やや少ない」となった。
- 登熟は、8月中旬以降の日照不足や台風第15号、第18号の影響等により、総じて「平年並み」ないし「不良」となった。

## 水稲の作柄に関する委員会の意見に対する作柄の概要

「水稲の作柄に関する委員会(平成27年度第2回)の意見」(平成27年9月2日)の抜粋

- 2 次回の調査に当たって留意すべき事項
- (1) <u>早場地帯の地域</u>においては、<u>もみ数が多い条件下で、出穂後の高温や8月中旬以降の日照</u> 不足等が登熟や品質に及ぼす影響に留意する必要がある。
- (2) <u>6月から7月にかけて低温・日照不足となった西日本の遅場地帯</u>においては、<u>もみ数への</u> 影響を見極める必要がある。
- (3) <u>8月下旬の台風第15号の影響により倒伏等が発生した地域</u>では、その影響を見極める必要があるとともに、今後の台風や集中豪雨等による作柄への影響にも留意する必要がある。
- (4) <u>いもち病、斑点米カメムシ類等の病虫害の発生が多いと予想される地域</u>においては、その 発生状況に留意する必要がある。

### 1 早場地帯での8月中旬以降の日照不足等による登熟や品質への影響

1 ㎡当た		<b>áたり</b>	千もみ	当たり	/L \P	1等米上	比率(%)		日照時間	引(平年対	対比:%)	及び 平	均気温(	平年差:	°C)									
	全も	み数	収	量	作況 指数	27年産 26年産 12月現在 確定				27年産 26年産				27年産 26年産			6月	7月	8月			9月		
	(百粒)	平年比	(g)	平年比	10 30				月間	月間	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬								
宮城	301	105	18. 6	98	102	103 83.0	83. 0 91. 8-	02 0 01 0	02 0 01 0	02 0 01 0	01 0	日照時間	125	160	175	79	6	53	132	155				
(仙台)	301	105	10.0	90	103			平均気温	1.5	2. 6	3. 6	0.4	▲ 3.3	▲ 1.0	▲ 0.3	0.8								
山形	328	104	19. 1	99	103	04.7	93. 6	日照時間	111	134	156	57	23	52	120	134								
(山形)	104	19.1	99	103	94. 7	93.0	平均気温	0.8	2. 0	2. 6	▲ 1.0	▲ 3.1	▲ 1.3	▲ 0.4	0. 5									

	1 m² ≝	<b>またり</b>	チもみ	当たり		1 等米比	比率(%)		日照時間	間(平年対	对比:%)	及び 平	均気温(	(平年差:	°C)								
	全も	み数	収	量	作況 指数	27年産	26年産		6月	7月		8月			9月								
	(百粒)	平年比	(g)	平年比	11 %	12月現在	確定		月間	月間	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬							
福島	309	105	18. 4	98	101	90. 7	92.0	日照時間	106	130	158	56	3	37	120	161							
(福島)	309	103	10. 4	90	101	90. 7	92.0	平均気温	1. 2	2. 6	3. 1	▲ 0.7	<b>▲</b> 4.1	▲ 1.6	▲ 0.1	0. 6							
茨城	312	104	17. 1	96	96	84. 4	92.5	日照時間	119	128	167	55	31	32	112	152							
(水戸)	312	104	17. 1	30	90	04. 4	32.0	32.0	平均気温	1. 2	1. 7	3.0	0. 5	▲ 2.2	▲ 0.4	▲ 0.5	0. 2						
新潟	296	101	18. 3	97	97	78. 7	75.7	日照時間	114	118	167	43	49	25	89	120							
(新潟)	290	101	10. 3	97	97	70. 7	75.7	平均気温	0. 5	0. 7	1.5	▲ 1.1	▲ 2.5	▲ 1.9	▲ 1.8	▲ 0.3							
富山	293	105	19. 6	99	103	90. 8	87.6	日照時間	110	129	162	59	40	46	107	146							
(富山)	293	103	19.0	99	103	90. 0	87.0	平均気温	0. 5	0. 9	1. 9	▲ 0.6	▲ 1.0	▲ 1.6	▲ 1.6	0. 1							
滋賀	304	101	17. 4	99	100	75. 1	50.5	日照時間	90	94	143	74	77	41	126	128							
(彦根)	304	101	17.4	99	100	73. 1	30.3	平均気温	0. 2	0. 6	2. 4	▲ 0.5	▲ 1.1	▲ 2.1	<b>▲</b> 1.6	0. 3							
島根	277	277	101	18. 5	97	00	69.0	70.6	日照時間	89	86	151	69	74	45	126	142						
(松江)	211	101	101	101	101	101	101	101	101	18.5	97	98	68. 0	70.6	平均気温	0. 2	0. 2	1.3	▲ 1.2	▲ 1.8	▲ 2.1	▲ 2.1	0. 7

- 注:1 県名の下段の()書きはアメダス地点名である。
  - 2 作況指数については、農家等が使用しているふるい目幅ベースである。
  - 3 1等米比率は、政策統括官付穀物課「米の農産物検査結果」における水稲うるち米の結果である。
    - ① 早場地帯の地域においては、田植期以降 6 月から 7 月にかけて一時的に低温・日照不足となった時期があったものの、全般的にはおおむね天候に恵まれたことから生育は順調に推移し、全もみ数は「平年並み」ないし「やや多い」となった。
  - ② 一方、出穂期以降は、8月中旬までは高温・多照で推移したものの、日照時間が8月中旬から9月上旬に平年を下回り、気温は8月中旬から9月中旬に平年を下回って推移した。
  - ③ このような気象及びもみ数の状況において、千もみ当たり収量をみると、多くの地域で「平年並み」ないし「やや少ない」となった。また、生育ステージの遅い地域や品種ほど低温・日照不足の影響を受けた。

## 2 遅場地帯での6月から7月の低温・日照不足によるもみ数への影響

日照時間(平年対比:%)及び 平均気温(平年差:°C)								1 ㎡当たり			1穂当たり		1 m² ≝		<i>/</i> <b>-</b> `□		
			6 月			7月		8	月	出穂最盛期 (平年遅速)	有効穂数				全もみ数		作況 指数
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	(1122/	(本)	平年比	(粒)	平年比	(百粒)	平年比	1120
愛知	日照時間	77	61	131	14	115	119	136	85	8月18日	379	99	74. 7	100	283	99	99
(名古屋)	平均気温	▲ 0.6	0. 4	▲ 0.8	<b>▲</b> 2.5	1. 2	1. 5	2. 4	0. 1	(並み)	073	33	74. 7	100	200	3	33
兵 庫	日照時間	73	64	139	33	131	90	139	62	8月13日	343	101	79. 0	99	271	100	99
(神戸)	平均気温	▲ 0.9	▲ 0.1	▲ 0.4	▲ 1.4	0.6	0. 1	1. 9	▲ 0.8	(並み)	545	101	13.0	33	271	100	99
岡山	日照時間	88	63	135	47	113	98	139	60	8月24日	352	101	79. 0	97	278	98	96
(岡山)	平均気温	<b>▲</b> 1.5	▲ 0.6	▲ 1.2	▲ 1.9	0. 2	▲ 0.5	1. 2	▲ 1.9	(5日遅)	332	101	19.0	91	270	90	30
愛媛	日照時間	77	58	111	43	71	85	140	59	8月15日	352	99	78. 7	101	277	100	98
(松山)	平均気温	▲ 1.0	▲ 0.6	▲ 0.6	▲ 2.1	0. 1	0. 1	1. 1	<b>▲</b> 1.5	(1日遅)	332	99	10. 1	101	211	100	96
福岡	日照時間	76	69	119	79	68	103	156	73	8月25日	350 93	93	80. 6	104	282	97	95
(福岡)	平均気温	▲ 0.4	0.0	▲ 0.9	▲ 2.4	▲ 1.9	0. 5	1. 3	▲ 1.2	(2日遅)	330	93	00. 0	104	202	91	90
佐賀	日照時間	69	43	101	69	76	83	130	76	8月29日	386	96	76. 7	103	296	99	99
(佐賀)	平均気温	▲ 0.5	▲ 0.7	▲ 0.7	▲ 0.8	▲ 0.6	0. 1	1. 9	▲ 0.8	(1日遅)	300	90	70. 7	103	290	99	99
熊本	日照時間	60	34	92	65	66	83	141	68	8月26日	359	93	81. 1	106	291	99	97
(熊本)	平均気温	▲ 1.0	▲ 1.6	▲ 1.2	▲ 1.7	▲ 1.0	▲ 0.6	1. 3	▲ 1.5	(4日遅)	309	93	01.1	100	291	99	97
大 分	日照時間	69	39	76	34	54	112	147	59	8月29日	348	95	82. 5	102	287	97	95
(大分)	平均気温	▲ 0.5	▲ 1.1	▲ 0.9	▲ 2.8	▲ 0.7	0.4	1.5	▲ 0.7	(2日遅)	340	90	02. 0	102	201	97	90

注:1 県名の下段の()書きはアメダス地点名である。

- ① 東海以西においては、6月から7月にかけておおむね低温・日照不足傾向で推移し、7月下旬から8月上旬にかけて天候は回復したものの、8月中旬以降も低温・日照不足となった。
- ② このような状況により、田植最盛期が6月中旬である九州地域を中心に初期生育が抑制され、 穂数が平年に比べて少なくなり、1穂当たりもみ数は補償作用がみられたものの、1㎡当たり全 もみ数は多くの地域で「平年並み」ないし「やや少ない」となった。

<sup>2</sup> 作況指数については、農家等が使用しているふるい目幅ベースである。

## 3 台風等による作柄への影響

災害名	主 な 都道府県	被害面積	被害量
		ha	t
	新潟	11, 400	3, 790
	島根	500	100
	山口	1, 350	211
	福岡	21, 600	2, 960
│  台風第15号	佐賀	6, 760	555
口 風 第 13 写 	長崎	3, 260	462
	熊本	35, 500	1, 670
	大分	1, 370	230
	宮崎	5, 790	221
	鹿児島	14, 700	274
	宮城	3, 630	1, 020
	福島	85	257
平成27年9月関東・東北豪雨(台 風第18号等による大雨)	茨城	5, 380	12, 900
	栃木	2, 200	2, 730
	千葉	44	119

データ:「農作物災害種類別被害統計」

注:主な都道府県は被害量が100 t 以上を記載した。

- ① 8月下旬の台風第15号の影響により、新潟県、九州の各県等において、強風による倒伏・白穂等の被害が発生した。
- ② 9月9日から11日に関東地方及び東北地方で発生した「平成27年9月関東・東北豪雨」により、 茨城県を中心に冠水、浸水、倒伏等の被害が発生し、一部地域においては収穫皆無のほ場も発生 した。

### 4 病虫害の発生による作柄への影響

#### 〇病害虫発生予報第7号(平成27年9月18日発表)抜粋

- ・ イネいもち病:ほとんどの地域で、本病の発生が「多い」又は「やや多い」と予想されており、9月17日現在で、11県(延べ 18件)が本病の注意報を発表しています。
- ・ 斑点米カメムシ類:これまで、15道府県(延べ17件)が本虫の注意報を発表しており(9月17日現在)、多くの地域で本虫の 発生が多い」又は「やや多い」と予想されます。
- トビイロウンカ:本年は、本虫の発生は少なく推移しています。

#### いもち病及びカメムシの被害量

		27年産 作況指数	いも	。 ち病(t	)			07 <del>/-</del> ÷	いもち病( t )				
			27年産	(参	考)			27年産 作況指数	27年産	(参考)			
			27千座	26年産	25年産			27千座	26年産	25年産			
鳥	取	99	508	1, 820	249	高	知	96	2, 330	917	196		
島	根	98	1, 050	1, 370	564	福	岡	95	4, 700	4, 600	2, 390		
岡	山	96	2, 830	3, 860	4, 920	佐	賀	99	3, 590	8, 410	1, 180		
広	島	96	3, 110	4, 090	1, 410	長	崎	100	1, 290	783	559		
山	П	97	2, 320	1, 500	840	熊	本	97	5, 350	2, 730	2, 420		
徳	島	97	953	1, 850	1, 350	大	分	95	3, 950	3, 200	3, 800		
香	Ш	94	1, 410	1, 400	767	宮	崎	93	4, 630	2, 820	3, 310		
愛	媛	98	1, 820	935	762	鹿リ	島	95	5, 930	4, 180	2, 590		

注:作況指数については、農家等が使用しているふるい目幅べ一スである。

	07/5	カメ	ムシ( t	)
	27年産 作況指数	07左去	(参	考)
	11 001100	27年産	26年産	25年産
青 森	105	33	134	103
岩 手	105	101	54	65
宮城	103	392	360	348
秋 田	103	454	251	422
山形	103	330	260	294
福島	101	284	331	361
新潟	97	160	87	190
富	103	249	28	63
石 川	101	90	60	60
福井	99	457	77	60

- ① いもち病については、中国・四国・九州地域等の一部において発生がやや多くみられたものの、 防除の徹底等により被害は限定的となった。
- ② カメムシについては、東北・北陸地域等の一部地域において、着色粒の発生に伴う品質低下が みられたが、全国的には大きな被害の発生には至らなかった。